

第 58 回 X 線分析討論会

—当日参加募集—

主催 (公社)日本分析化学会 X 線分析研究懇談会
 共催 (公社)日本分析化学会近畿支部
 後援 兵庫県立大学高度産業科学技術研究所, 姫路観光コンベンションビューロー

協賛学会 (公社)応用物理学会, 他

「ポストコロナ時代の X 線分析の在り方」をサブタイトルに,
 1) X 線分析の自動化, 計算科学との融合, 2) X 線要素機器の
 開発と X 線分析への展開, 3) X 線分析による材料解析とその
 応用展開, 4) X 線イメージングおよび顕微解析, 5) 他の量子
 ビーム利用解析との融合, といったテーマに沿って発表, 講
 演, 討論を行います。

期日 2022 年 11 月 10 日 (木)・11 日 (金)

会場 イーグレひめじ [兵庫県姫路市本町 68 番 290, 交通:
 JR「姫路」駅から姫路城の方へ約 600 m]

討論会プログラム

第 1 日 (11 月 10 日)

受付開始 (8.50~)

開会挨拶 (9.15~9.20)

第 1 セッション (9.20~10.40)

O1-1S 砂糖の加熱 in-situ XANES 測定と固体中水素結合
 の XANES 解析 (兵県大院工) ○平松佳恵, 村松康司

O1-2S 試料加熱軟 X 線吸収分析装置を利用した熱変性タ
 ンパク質の in-situ XANES 測定 (兵県大) ○下垣都弥,
 田中利幸, 村松康司

O1-3S 軟 X 線吸収分光法と第一原理計算によるシリコン
 ドープナノダイヤモンドの電子状態解析 (兵県大, 2ダイ
 セル) ○濱田隆暉¹, 村松康司¹, 劉 明², 西川正浩²

O1-4S 秋間補間による X 線スペクトルのバックグラウン
 ド推定 (京大) ○大橋律禎, 加藤駿英, 河合 潤, 向山
 毅

休憩 (10.40~10.50)

第 2 セッション (10.50~12.10)

O1-5S 水による CO₂ 還元活性に及ぼす酸化ガリウムの担
 持効果 (阪公大) ○市川恭史郎, 青木知美, 赤柄誠人, 山
 本宗昭, 田辺哲朗, 吉田朋子

O1-6S Lysine 添加によりサイズ制御された Au/C を用い
 た気相での電気化学的 CO₂ 還元 (阪公大) ○菰口佳吾,
 田辺哲朗, 吉田朋子, 山本宗昭

O1-7S Cs-L₁, L₂, L₃ 端 XAFS を用いたポルサイトの分析
 法の開発 (福島大院理工, 福島大理工, 3九大 SR セ) ○
 田渡琉音¹, 梅津裕義², 高久遼介², 杉山武晴³, 大橋弘範²

O1-8S 中性子回折を用いた低合金 TRIP 鋼の熱処理中にお
 ける組織形成過程の観察 (茨城大院, 茨城大フロンティア,
 3東京電機大) ○河原幸汰¹, 梅村和希¹, 小貫 祐^{2,3},
 星川晃範², 富田俊郎², 佐藤成男¹

昼休み (12.10~13.10)

ポスターセッション (13.10~15.10)

P-1S X 線ビーム径の数学的考察および実験結果への適用
 (阪公大院工, 阪公大院理) ○中江理紀¹, 伊師英之², 松
 山嗣史¹, 辻 幸一¹

P-2S 共焦点蛍光 X 線分析法による爪試料の深さ方向元素
 イメージング (阪公大院工) ○浦田泰成, 松山嗣史, 辻
 幸一

P-3S 全反射蛍光 X 線測定における分析体積の評価 (阪公
 大工, 阪公大院工) ○谷口尚哉¹, 松山嗣史², 辻 幸一¹

P-4S アンモニア-過酸化水素混合液を用いた全反射蛍光 X
 線微量元素分析のための試料基板の親水化処理 (阪公大院
 工) ○田中悠大, 松山嗣史, 辻 幸一

P-5S ベルトコンベア上の移動物体のマクロ蛍光 X 線分析

(¹阪公大工, ²阪公大院工) ○西俣真¹, 松山嗣史², 辻 幸
 一¹

P-6S 超音波浮揚技術によって空中保持された試料の蛍光
 X 線分析 (阪公大院工) ○奥田晟生, 松山嗣史, 辻 幸一

P-7 微小部 XRD 測定を実現するための試料位置 (高さ)
 調整方法の検討 (兵庫県立工業技術センター) 山下 満

P-8 AFX ゼオライトの SDA 状態解析 (東ソー分析セン
 ター) 倉重裕一

P-9 放射光 X 線イメージングにおける新規試料ダメージ
 低減方法の開発 (¹住化分析センター, ²兵県大) ○末広省
 吾¹, 幸坂 崇¹, 真家 信¹, 齋藤智浩¹, 高山裕貴²

P-10S アミノ酸の構造と X 線照射量の光分解依存性 (¹兵
 県大高度研, ²理研, ³JASRI) ○三枝峻也^{1,2}, 中村 遼^{1,2},
 赤松直也^{1,2}, 内海裕一¹, 石原知子^{2,3}, 大浦正樹², 山口明
 啓^{1,2}

P-11S 電解ニッケル析出プロセスの X 線吸収分光法を用
 いた in situ 分析 (¹兵県大学高度研, ²理研, ³北大) ○三
 枝峻也^{1,2}, 赤松直也^{1,2}, 中村 亮^{1,2}, 内海裕一¹, 加藤
 優^{2,3}, 八木一三^{2,3}, 石原知子^{2,3}, 大浦正樹², 山口明啓^{1,2}

P-12S X 線光化学反応を用いたニオブ酸リチウム上にお
 けるナノ粒子生成の pH 依存性 (¹兵県大高度研, ²名大 SR
 セ, ³あいち SR, ⁴岐阜大) ○三枝峻也¹, 桜井郁也², 岡田
 育夫³, 山田啓介⁴, 嶋 睦宏⁴, 内海裕一¹, 山口明啓¹

P-13S In situ HAXPES による PTFE の分子鎖切断と放射
 光ドライエッチングプロセスの解明 (¹兵県大高度研, ²兵
 県大院理, ³マツダ) 藤谷海斗¹, 竹中研人², 高原光司¹,
 山口明啓¹, 内海裕一¹, 住田弘祐³, 鈴木 哲¹

P-14S 2 次ターゲット偏光蛍光 X 線分析 (京大) ○加藤駿
 英, 河合 潤

P-15 X 線磁気円偏光発光を用いたバルク敏感な磁気光学
 顕微鏡の開発 (¹QST, ²JFE テクノリサーチ) ○菅原健
 人¹, 稲見俊哉¹, 中田崇寛², 阪口友唯², 高橋 真²

P-16 散乱 X 線の理論強度を用いる樹脂薄膜の膜厚測定お
 よび形状補正 (¹島津製作所, ²島津総合サービス) ○小川
 理絵¹, 越智寛友²

P-17S レジスト薄膜中の空間分布測定を目的とした軟 X 線
 反射型共鳴散乱法の検討 (兵県大) ○中本敦啓, 山川進
 二, 原田哲夫, 渡邊健夫

P-18 火成岩の蛍光 X 線定量用標準物質の選択方法 (¹リガ
 ク, ²明治大) ○松田 渉¹, 森川敦史¹, 中村利廣²

P-19 X 線回折/Rietveld 法により得られた定量値の正確性
 評価 (リガク) ○葛巻貴大, 大淵敦司, 市川佑貴

P-20S 準大気圧光電子分光における光電子強度のランベル
 トベールの法則からのずれ (¹兵県大理, ²兵県大高度研,
³マツダ) ○竹中研人¹, 高原光司², 江口智己², 住田弘祐³,
 鈴木 哲²

P-21S 準大気圧光電子分光における試料の帯電の評価 (¹兵
 県大高度研, ²兵県大理, ³マツダ) ○高原光司¹, 竹中研
 人², 住田弘祐³, 鈴木 哲¹

P-22 屋外暴露したエポキシ樹脂塗料の XPS/FT-IR に
 よる劣化状態の解析 (長野県工業技術総合センター) ○矢
 崎辰哉, 水寄英明, 田垣千英

P-23 軟 X 線吸収分光法を用いた DLC 膜の構造解析 (¹三
 菱ケミカル, ²兵県大) ○藤方 悠¹, 脇田潤史¹, 赤井俊
 雄¹, 山田咲樹², 下垣都弥², 田中利幸², 村松康司²

P-24S ナノグラファイト膜を用いた sp² 炭素の質量吸収係
 数測定における密度補正: 浮沈法による密度測定と分子動
 力学計算によるグラフェンの積層挙動解析 (¹兵県大院工,
²産総研) 赤木翔真¹, 村松康司¹, 曾根田靖²

P-25S 直鎖アルカンの CK 端 XANES 測定と DFT 計算に
 よる解析 (兵県大院工) ○田中利幸, 村松康司

P-26S DFT 計算によるイミダゾリウム系イオン液体の
 XANES 解析 (兵県大) ○宇田真之介, 村松康司

- P-27S 軟X線吸収・発光分光法と第一原理計算による Melem 分子のキャラクタリゼーション (兵庫県) ○榎谷嘉人, 村松康司
- P-28S Ce-Al アモルファス合金から調製した多孔質 CeO₂ の構造がその Pd 担持触媒の煤燃焼反応特性に与える影響 (兵庫県) ○津田智哉, 野崎安衣, 西 亜未, 山本宏明, 森下政夫
- P-29S Au-Al 合金からの Al-MOFs 修飾多孔質 Au 触媒開発 (兵庫県) ○住田幹弥, 野崎安衣, 山本宏明, 森下政夫
- P-30S 合金からのルテニウム-酸化鉄の調製とその水素生成反応特性 (兵庫県) ○三好 颯, 野崎安衣, 住田幹弥, 山本宏明, 森下政夫
- P-31S Fe 合金からの水素生成反応における固相の X 線解析 (1東京都市大工, 2東京都市大院総理工) ○中澤礼香¹, 八木 駿², 江場宏美²
- P-32S 食塩結晶成長過程における夾雑イオン取り込み現象の観察 (1東京都市大, 2イメージング物理研究所) ○細井敬泰¹, 関根昂河¹, 江場宏美¹, 桜井健次²
- P-33S 鉄鋼スラグに含まれる CaO の水和反応における共存酸化物の影響の解明 (東京都市大院) ○芹ヶ野竜介, 江場宏美
- P-34S 可搬型蛍光 X 線分析装置によるマイクロプラスチック中微量金属元素精密定量法の検討 (1麻布大院環境保健, 2麻布大生命環境) ○志村 瞬¹, 新垣達章², 伊藤彰英², 中野和彦²
- P-35 可搬型蛍光 X 線分析装置を用いたモザイクガラス玉の化学組成分析 (1東京電機大, 2岡山市立オリент美術館, 3MIHO Museum, 4国立慶州博物館) ○村申まどか¹, 阿部善也¹, 四角隆二², 東 容子³, 金 度潤⁴, 李 承恩⁴
- P-36S 都市ごみ焼却飛灰の X 線分析による溶出機構の検討 (1明治大院, 2明治大, 3リガク) ○秋野友香¹, 関野梨名², 加世田大雅¹, 大淵敦司³, 小川熱人², 小池裕也²
- P-37 μ-XRF を用いた福徳岡ノ場の軽石の元素分析および地球科学的考察 (1堀場テクノサービス, 2総合地球環境学研究所) ○中野ひとみ¹, 新城竜一², 駒谷慎太郎¹
- P-38 多摩川集水域にて採取した河床堆積物の鉱物組成 (1明治大院, 2リガク, 3明治大) ○猪瀬聡史¹, 松田 渉², 本多貴之³, 小池裕也³
- P-39 第一原理計算による銅酸化物/水酸化物の XANES/ELNES シミュレーション (住友電気工業) ○久保優吾, 後藤和宏, 上村重明
- P-40 NCA 系活物質含有 Mn 系 LIB の劣化原因究明と炭素系負極活物質表層の Li+パズ解析 (1名大, 2AichiSR, 3河村電器産業) ○渡部 孝¹, 高岸洋一¹, 渡辺義夫², 大島正稔³, 小西功次³
- P-41 Xspecia による遷移金属分析 (島津製作所) ○米田哲弥, 大森崇史, 西埜 誠, 丹生 隆, 三田村茂宏, 元木秀彦, 鈴木桂次郎
- P-42 X 線吸収分光による次世代大容量 Si 負極の電解質溶液塩との反応観察 (1兵庫県大, 2コベルコ科研) ○中西康次¹, 森 拓弥², 大園洋史², 鈴木 哲¹
- P-43 電池材料のリサイクル効率向上を目的とした蛍光 X 線を用いた粒子解析 (1堀場テクノサービス, 2イーージェス) ○安保拓真¹, 中野ひとみ¹, 近藤治郎², 駒谷慎太郎¹
- P-44S 炭酸カルシウムの相転移と Ca K 殻 XAFS 分析 (広島大院先進理工) ○馬 玉潔, Jens R. Stellhorn, 早川慎二郎
- P-45S 高エネルギー分解能蛍光検出 X 線吸収分光法を用いた生体内元素化学評価法の検討 (1QST 放医研, 2千葉大院理, 3QST 量子生命, 4QST 量子ビーム, 5JAEA) ○佐藤遼太郎^{1,2}, 上原章寛¹, 大澤大輔³, 加藤由悟¹, 薬丸晴子¹, 石井賢司⁴, 松村大樹⁵, 田中 泉¹, 石原 弘¹, 武田志乃¹
- P-46 生体組織中セシウムの分布解析手法の検討 (1QST 放医研, 2千葉大院理, 3JASRI) ○薬丸晴子¹, 田中 泉¹, 加藤由悟¹, 阿山香子¹, 沼子千弥², 関澤央輝³, 新田清文³, 上原章寛¹, 石原 弘¹, 武田志乃¹
- P-47S 中性子散乱光学系の窓材に適した Ti-6Al-4V 合金のミクロ組織 (1茨城大, 2茨城大フロンティア, 3横浜国立大, 4CROSS) ○鈴木 建人¹, Pramote Thirathipviwat^{2,3}, 張朔源⁴, 有馬 寛⁴, 岩瀬裕希⁴, 阿部 淳⁴, 佐藤成男¹
- P-48S 中性子回折を用いた純銅の高温圧縮変形時に伴うミクロ組織形成の観察 (1茨城大院理工, 2東京電機大, 3三菱マテリアル, 4東北大) ○馬場可奈¹, 小貫祐介², 長岡佑磨³, 伊東正登³, 鈴木 茂⁴, 佐藤成男¹
- P-49S 純銅と Cu-Zn 合金の引張変形中の転位増殖過程の観察 (1茨城大, 2東京電機大, 3三菱マテリアル, 4東北大) ○柄澤誠一¹, 馬場可奈¹, 小貫祐介², 長岡佑磨³, 伊東正登³, 鈴木 茂⁴, 佐藤成男¹
- P-50S 強加工銅合金における合金元素による GN/SS 転位増殖への作用 (1茨城大, 2三菱マテリアル, 3東北大) ○大後直樹¹, 飯原智美², 高野こずえ², 伊藤優樹², 牧 一誠², 鈴木 茂³, 佐藤成男¹
- P-51 EIGER2 Upgrade : New features for Advanced X-Ray Diffraction Experiments (DECTRIS Ltd.) Max Burian
全体写真撮影・休憩 (15.10~15.40)
第3セッション (15.40~17.00)
- O1-1 グラフェン製入射窓を備えた新型シリコンドリフト検出器の可搬型蛍光 X 線分析装置への導入と文化財の非破壊オンサイト分析への応用 (1東京電機大, 2アワーズテック) ○阿部善也¹, 村申まどか¹, 椎野 博², 永井宏樹², 中嶋佳秀²
- O1-2 卓上型顕微 EDXRF を用いた絵画色材分析~中世ヨーロッパ彩飾写本リーフ・江戸時代浮世絵の分析~ (1堀場テクノサービス, 2吉野石膏美術振興財団, 3下井木版印刷所) ○西村智椰¹, 大石 誠¹, 安保拓真¹, 相馬結花¹, 西田有紀², 下井雄也³, 中野ひとみ¹, 駒谷慎太郎¹
- I-1 X-ray exploration and analysis of Artworks from the macro to the microscale (Univ. of Antwerp) Prof. Koen Janssens (依頼講演)
休憩 (17.00~17.10)
第4セッション (17.10~18.10)
- O1-3 リュウグウ小惑星試料の WD-XRF 分析 (1リガク, 2東京電機大, 3JASRI, 4東理大, 5北大) ○本間 寿¹, 阿部善也², 寺田靖子³, 中井 泉⁴, 塚本尚義⁵
- O1-4 リュウグウ小惑星試料の ED-XRF 分析 (1堀場テクノサービス, 2東理大, 3東京電機大, 4JASRI, 5北大) ○森田麻由¹, 駒谷慎太郎¹, 由井宏治², 阿部善也³, 寺田靖子⁴, 中井 泉⁵, 塚本尚義⁵
- O1-5 リュウグウ小惑星試料の高エネルギー放射光蛍光 X 線分析 (1東京電機大, 2JASRI, 3東理大, 4北大) ○阿部善也¹, 寺田靖子², 中井 泉³, 塚本尚義⁴
ミキサー (18.30~20.00, 於「三日潮」要事前申込)
- 第2日 (11月11日)
第5セッション (9.10~10.50)
- O2-1 新型高感度検出器搭載 Micro-XRF によるボロンからの元素分析 (堀場製作所) ○柳井優花, 松永大輔, 青山朋樹
- O2-2 現代の ED-XRF テクノロジーによる貴金属合金の高精度分析 (1アメテック・スペクトロ, 2SPECTRO Analytical Instruments) ○宮城琢磨¹, Dirk Wissmann²
- O2-3 軟 X 線スーパーミラー型高回折効率高分解能回折格子の設計 (1QST, 2東北大, 3阪公大, 4島津製作所) ○小池雅人^{1,2,3}, 羽多野忠², ピロジコフ S. アレキサンダー¹,

- 上野良弘⁴, 寺内正己²
- I-2 奥行き・広がりのある分析について(元・物材機構)
桜井健次(依頼講演)
休憩(10.50~11.00)
第6セッション(11.00~12.00)
- O2-4 プラズマ照射によるタンゲステン材料への光触媒機能付与(¹阪大, ²名大) 山本宗昭¹, 小森勝之², 八木伸也², ○吉田朋子¹
- O2-5 ジルコニア担持銅触媒のXRD/XAFS分析およびエタノール転換反応活性(徳島大) ○山本 孝, 峰 広嵩
- O2-6 蛍光収量 XAFS による鉄鉱石中リン賦存状態分析(¹東北大, ²日本製鉄) ○篠田弘造¹, 村尾玲子², 豊島展¹, 鈴木 茂¹
昼休み(12.00~13.00)
第7セッション(13.00~14.40)
- O2-7 X線磁気円偏光発光を用いた方向性電磁鋼板の磁区観察(¹QST, ²JFE テクノリサーチ) ○稲見俊哉¹, 菅原健人¹, 中田崇寛², 阪口友唯², 高橋 真²
- O2-8 低出力 X 線管の非単色 X 線を用いた Si ウエハの TXRF 分析(京大) ○河合 潤, Dayun Liu
- O2-9 ベイズ推定に基づく蛍光 X 線スペクトル予測の基礎検討(¹阪大大院工, ²JAEA) ○松山嗣史¹, 中江理紀¹, 村上昌史², 吉田幸彦², 町田昌彦², 辻 幸一¹
- I-3 二次電池分析における放射光計測・解析×インフォマティクス(コベルコ科研) 森 拓弥(依頼後援)
休憩(14.40~14.50)
第8セッション(14.50~16.20)
- O2-10 蛍光 X 線分析による河川水ウラン汚染の迅速スクリーニング(¹QST, ²東邦大) ○吉井 裕¹, 酒井康弘¹
- O2-11 遷移金属添加アパタイトの合成と X 線分析(千葉大) ○沼子千弥, 林実貴子, 佐藤遼太郎, 宣冬陽, 鮮樹輝, 寺内美裕
- O2-12 ゲル中に生成した Mn-Fe プルシアンブルー類似体の特異な Cs 吸着の X 線分析(日女大理) 林 久史
- O2-13 軟 X 線吸収・発光分光法による非晶質炭素膜中の sp² 結合の配向構造の観測(¹兵県大, ²東大, ³東京工業大) 新部正人^{1,2}, 神田一浩¹, 赤坂大樹³, 平田祐樹³, 大竹尚登³
- O2-14 準大気圧光電子分光における環境帯電補償効果—試料とアパーチャーコーン間距離の影響—(¹兵県大高度研, ²兵県大理院, ³マツダ) 鈴木 哲¹, 竹中研人², 高原光司¹, 住田弘祐³
学生賞表彰式(16.20~16.30)
閉会挨拶(16.30~16.40)
- 別室にて協賛企業6社殿によるブース展示があります。
- 参加登録料(非課税) 一般:6,000円(会員*),7,000円(非会員), 学生:3,000円(*協賛学会員を含む)
- 詳細については, 討論会 Web サイト
<https://xbun.jsac.jp/conference/no58.html>
をご覧ください。
- 連絡先 〒679-5198 兵庫県佐用郡佐用町光都 1-1-1
(公財)高輝度光科学研究センター 上原 康
[電話:0791-58-2706, E-mail:x58.himeji@gmail.com]

第41回分析化学基礎セミナー (無機分析編):2日間講習

—現場技術者の分析技術の基礎習得へ向けて—

主催 (公社)日本分析化学会関東支部
近年,多くの分野で分析化学の技術が使用され,また,その信頼性も重要視されています。分析化学の基礎技術及び使用する機器等の信頼性の確保ができて,初めて出力された分析値に

信頼性が生じます。本セミナーは無機分析に関連した講義を中心としていますが,分析化学の基礎を習得するうえで是非とも知っておくべき内容を多く含み,大学の授業では教えていないようなノウハウや実務に役立つことを講義しますので,無機分析・有機分析を問わず受講されることをお勧めします。また,代表的な3つの無機分析法について「いまさら聞けない機器分析」として,具体的な基本事項を解説いたします。分析技術の基礎を学びたい方,もう一度学び直したい方は,この機会に奮ってご参加ください。今般,コロナ禍において感染防止を確保するため,オンラインでのセミナーとして開催いたしますので,コンピュータ,スマートフォンあるいはタブレット等の環境が整っていれば自宅あるいは勤務先から長距離移動を気にせずに参加いただけます。関心のある方は是非ご参加ください。
期日 2022年11月30日(水)・12月1日(木)

Webソフト Zoom

対象者 現場で分析実務を担当している技術者及び「分析化学の基礎」を習得しようとする者で2日間全講義を受講できる方

目的 分析技術の基礎的技術の習得と向上に向けての教育

募集定員 なし

講習内容

第1日(11月30日(水)13.00~17.10)

- 13.00~13.10 開会のあいさつ(実行事務局) 関東支部長
- 13.10~13.50 分析化学を学ぶ—信頼性確保に向けて—(産業技術総合研究所) 津越敬寿
- 14.00~15.00 汚染の原因とその管理(産業技術総合研究所) 米谷 明
- 15.10~16.00 酸やアルカリ試薬による金属と無機化合物の溶かし方(Yoshikawa Sci. Lab) 吉川裕泰
- 16.10~16.50 マイクロ波を利用する加圧分解法(イアス) 一之瀬達也

16.50~17.10 質疑応答

第2日(12月1日(木)9.40~17.25)

- 9.40~10.50 分析値の提示と分析値の意味(明星大学) 上本道久
- 11.00~11.50 ピペットおよび電子天びんの使い方と検量線の作成方法(島津総合サービス) 宮下文秀
- 12.50~13.35 ろ過ろ材の選び方とその使い方-(宇都宮大学) 上原伸夫
- 13.45~14.35 標準液の役割と取り扱い上の注意(化学物質評価研究機構) 上野博子
- 14.45~15.25 「いまさら聞けない機器分析」その1 原子吸光分析(日立ハイテックサイエンス) 白崎俊浩
- 15.35~16.15 「いまさら聞けない機器分析」その2 ICP 発光分光分析(元島津製作所) 舛田哲也
- 16.25~17.05 「いまさら聞けない機器分析」その3 ICP 質量分析(パーキンエルマー・ジャパン) 敷野 修
- 17.05~17.25 質疑応答

※17時25分終了予定。講習時間及び講義順は,変更する場合があります。

受講料 日本分析化学会会員(個人・団体会員)22,000円,会員外33,000円(税込み)※団体会員の特別・公益会員は1名のみ会員扱いとします。維持会員の事業所は複数名受講でも会員扱いとします。

受講証の発行 受講者には「分析化学基礎セミナー(無機分析編)」を受講した証として,受講証を発行します。なお,受講証はセミナー終了後に郵送いたします。

受講申込方法,申込締切日,送金方法等の詳細は日本分析化学会関東支部ウェブページを参照ください。

2022 年度第 3 回近畿支部講演会

主催 (公社)日本分析化学会近畿支部, 近畿分析技術研究懇話会

期日 2022 年 12 月 2 日 (金) 15.00~17.00

会場 大阪科学技術センター 7 階 700 号室 [大阪府大阪市西区
鞆本町 1-8-4, 電話: 06-6443-5324, 交通: 地下鉄四つ橋
線「本町」駅下車, 北へ徒歩約 7 分. うつば公園北詰]

講演

1. 放射光の法科学鑑定への応用 (仮題) (15.00~16.00)
(兵庫県警察本部科学捜査研究所) 渡邊誠也
2. ケモトリックスの歴史と未来~AI も含めて (16.00~
17.00) (大阪大学薬学研究科) 高木達也

参加費 無料

参加申込 標記行事名を題記し, (1) 氏名, (2) 勤務先 (所属), (3) 連絡先を記入の上, 下記申込先へ FAX または E-mail にてお申し込みください. なお, 参加証は発行いたしませんので, 当日は直接会場にお越しください.

申込先 〒550-0004 大阪府大阪市西区鞆本町 1-8-4
(公社) 日本分析化学会近畿支部 [電話: 06-6441-5531,
FAX: 06-6443-6685, E-mail: mail@bunkin.org]

※新型コロナウイルスの影響により, 延期やオンライン開催等に変更する可能性があります. 変更などの詳細は, 近畿支部ホームページ (<http://www.bunkin.org/>) にてご確認ください.

山口地区講演会

主催 (公社)日本分析化学会中国四国支部

共催 山口大学研究推進体「先端的な計測・分析機器基盤技術の創出」, 山口大学理学部

期日 2022 年 12 月 6 日 (火) 13.00~16.00

会場 山口大学共通教育 28 番教室, オープンルーム [山口県
山口市吉田 1677-1, 交通: JR 山口線「湯田温泉」駅下車,
徒歩 30 分]

講演

1. 「金属錯体の特性評価と分離分析法開発への展開」(山口
大院創成科学研究科) 鈴木敦子
2. ポスター発表

参加費 無料

連絡先 〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1 山口大学教
育・学生支援機構教育支援センター 藤原 勇
[電話・FAX: 083-933-5137, E-mail: fuji@yamaguchi-u.ac.jp]

第 378 回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー (LC)
研究懇談会

分離分析において, 温度はさまざまな影響をもたらします. 意図的に制御, 利用することで条件の一部とし, 測定等を有意に行うことができる一方で, 意識の及ばないとともに再現や望んだ結果が得られない原因ともなり得ます. 実験を行う上では非常に重要な因子であり, ノウハウにも結び付くことも多々あります. 本例会では, 最も身近で基本的なパラメーターである温度に今一度着目し, さまざまな切り口から講演いただきます.

期日 2022 年 12 月 23 日 (金) 13.00~17.00

会場 Zoom オンライン会場

講演主題 分離分析に関わる温度

講演

講演主題概説 (オーガナイザー) (13.00~13.10)

(ジエールサイエンス(株)) 松岡秀雄

1. カラム温度の分離への影響: 固定相の変化・移動相の
変化 (13.10~13.45)

(株)クロマニックテクノロジーズ 長江徳和
(LC 分析士二段)

2. カラム内での試料の変化と温度の重要性 (13.45~14.20)
(一財)化学物質評価研究機構) 大村友哉
(LC 分析士初段)

3. 試料の前処理過程における温度管理の重要性 (14.20~
14.55)

(株)東レリサーチセンター) 竹澤正明
(LC 分析士三段, LC/MS 分析士五段)

休憩 (14.55~15.15)

4. 検出と温度~その基礎と留意点 (15.15~15.50)

(株)島津総合サービス) 三上博久
(LC 分析士五段, LC/MS 分析士初段)

5. LC 分析における温度効果 (15.50~16.25)

(ジエールサイエンス(株)) 松岡秀雄
(LC/MS 分析士初段)

6. 総括「分離分析に関わる温度」(16.25~17.00)

(東京理科大学) 中村 洋
(LC 分析士五段, LC/MS 分析士五段)

参加費 LC 研究懇談会個人会員: 1,000 円, 協賛学会 (日本分析化学会, 日本薬学会, 日本化学会, 日本農芸化学会) 会員: 3,000 円, その他: 4,000 円, 学生: 1,000 円. 参加申込締切日後の受付はできませんので, ご了承ください.

情報交換会 講演終了後, 講師を交えて情報交換会を開催します (会費 1,000 円). 締切日後のご参加はできませんので, 参加希望者は必ず事前にお申し込みください.

参加申込及び参加費等納入締切日 2022 年 12 月 16 日 (金)
(入金締切時刻: 15 時まで)

申込方法

1. 参加希望者は, 下記申込先にアクセスし, 氏名, 勤務先 (電話番号), LC 会員・協賛学会会員・その他の別及び情報交換会参加の有無を明記のうえ, お申し込みください.
2. お申込みが完了した場合には, 登録されたアドレス宛に「第 378 回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付 (自動返信)」のメールが届きます. メールが届かない場合は, 世話人までお問い合わせください.
3. 申込受付のメールを受領後, 必ず期限内に参加費の納入を行ってください. 期限内に参加費納入が確認できない場合, 参加申込みを無効とし参加 URL を発行しませんので, 十分ご注意ください. なお, 一旦納入された参加費は, 返金いたしません.
4. 参加費の納入が確認できた方には, 2022 年 12 月 17 日以降に①例会サイト入場 URL と②「視聴者用操作マニュアル」をお送りします. また, 情報交換会参加費納入者には, ③情報交換会サイト入場 URL をお知らせいたします. なお, 請求書と領収書の発行はいたしておりません. 領収書は, 振込時に金融機関が発行する振込票等をもって替えさせていただきます.

液体クロマトグラフィー研究懇談会 (例会) 参加費送金時のご注意 例会参加費, 情報交換会参加費を送金される場合, 下記を禁止しておりますので, ご理解のほどよろしくお願いいたします.

1. 複数例会の参加費の同時振込
(→例会ごとに振り込んでください)
2. 複数参加者の参加費の同時振込
(→参加者ごとに振り込んでください)
3. 年会費や他の費用との合算振込

(→費目ごとに振り込んでください)

申込先 <https://forms.gle/b9dYQhb8ke3uHqNfA>

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通) 1754341 口座名:
シャ)ニホンブンセキカガクカイ

公益社団法人 日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会

問合せ (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 ジーエルサイエンス(株) 松岡秀雄
[E-mail: matsuoaka@gls.co.jp]

(プログラム編成が終わり次第, LC懇ホームページに掲載)

要旨提出先 E-mail: nakamura@jsac.or.jp

登録費 一般4,000円, 学生2,000円.

技術情報交換会 1月19日(木)18時より(参加費1,000円)

参加申込および登録費等納入締切日 1月12日(木)(入金締切時刻:15時まで)

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通)0802349, 口座名義:シャ)ニホンブンセキカガクカイ [(公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会]

第28回 LC & LC/MS テクノプラザ

～講演&参加募集～

主催 (公社)日本分析化学会 LC 研究懇談会 (LC 懇)

共催 LC シニアクラブ

後援 (公社)日本分析化学会, (公社)日本化学会, (公社)日本薬学会, (公社)日本農芸化学会

LC および LC/MS を日常的に利用しているオペレーター, 技術者の方々の情報交換, 問題解決・相互交流の場として, 標記テクノプラザを開催します。本プラザの特色は, 従来の機器・カタログ展示(今回は行いません)や一般講演に加え, 現場の共通の悩みをその都度「集中テーマ」として取り上げ, 実例を材料として具体的に議論することです。問題を解決できた例, 問題提起の段階でとどまっている例, これから問題になりそうな事柄などが, いずれも「集中テーマ」の対象になります。この会の主要な目的の一つは, 発表していただいた個々の問題を参加者全体の共通の認識にすることにあります。従って, 未解決の問題や失敗例でも一向に構いません。役に立つ情報であれば, いわゆるオリジナリティーには必ずしもこだわりません。なお, 本テクノプラザの講演者は, 次年度の「液体クロマトグラフィー努力賞」の審査対象となります。

期日 2023年1月19日(木)・20日(金)

会場 Zoom ウェビナー(詳細は LC 懇ホームページ参照)

講演募集分類 ①集中テーマ:(A)前処理における諸問題, (B)分離における諸問題, (C)検出・データ解析における諸問題, (D)未解決の諸問題, 教訓的失敗例, ②一般テーマ。

なお, 以下の講演・表彰なども予定されております。特別講演, 企業ヒストリー講演, 体験講演, CERI クロマトグラフィー分析賞受賞講演, LC 努力賞受賞講演, LC 科学遺産認定講演, LC/MS 技術講座, ベストオーガナイザー賞表彰, テクノプラザベストプレゼンテーション賞表彰。

発表形式 Zoom ウェビナー口頭発表

講演申込方法 講演申込は, LC 懇のホームページから(必要事項を明記)

講演申込締切 12月23日(金)

講演要旨締切 1月6日(金)執筆要領に従って要旨を作成し, 電子メールに添付。

講演要旨執筆要領

- A4判白紙を縦に使用し, 横17cm, 縦25cmの枠内(標準は1行38字, 1枚38行)にワープロで1~2枚作成してください。要旨集はA4判で作製します。
- 講演番号記入欄として, 1枚目の左上隅(左8字×4行分)は空白としてください。
- 講演題目(拡大文字)を書き, 1行空けて発表者の所属と氏名を書く。所属は括弧内にまとめ, 氏名にはふりがなを, また発表者の氏名の前には○印を付けてください。
- 所属・氏名の下を1行空けて, 目的, 実験, 結果, 考察などに分けて本文を書いてください。
- 2枚目は最上段から書いてください。

講演&参加申込先

<https://forms.gle/dyg9sccRZZBzkRWTA>

第27回液体クロマトグラフィー研究懇談会

特別講演会・見学会

主催 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会

後援 (公社)日本化学会, (公社)日本分析化学会, (公社)日本農芸化学会

期日 2023年1月23日(月)

会場 栗田工業(株) Kurita Innovation Hub (KIH) [東京都昭島市拝島町3993-15, 交通:JR中央線で立川まで行き, 青梅線に乗り換え(時間帯により直通電車あり), 「昭島」駅で下車, 北口より徒歩約10分]

<https://www.kurita.co.jp/aboutus/press220401.html>

スケジュール

- | | |
|-------------|---|
| 12.30~13.15 | 受付
司会 特別講演会・見学会(東日本)小委員長(東京理科大学)中村 洋 |
| 13.15~13.20 | LC 研究懇談会委員長挨拶(東京理科大学)中村 洋 |
| 13.20~13.40 | KIH の概要説明(栗田工業(株)) |
| 13.40~15.30 | 見学会(KIH S棟, N棟) |
| 15.30~15.40 | 休憩, 記念撮影 |
| 15.40~16.10 | 環境分析で用いられるクロマトグラフィー(ムラタ計測器サービス(株)・分析部)大塚克弘 |
| 16.10~16.40 | 水処理会社で用いられる分離・分析技術(栗田工業(株)・ウォーターソリューション推進部)榎本幹司 |
| 17.00~19.00 | 情報交換会 |
| 19.00 | 解散 |

参加費 5,000円(当日お支払いください)

申込方法 参加希望者は, 氏名, 勤務先(電話番号), LC 研究懇談会会員/会員外の区別を明記のうえ, E-mailにより下記宛にお申し込みください。なお, 競合メーカーからの参加者はお受けできませんので, ご了承ください。

申込期限 2023年1月13日(金)17時

定員 20名(定員になり次第, 締め切らせていただきます)。

申込先 (公社)日本分析化学会 LC 研究懇談会
[E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

——以下の各件は本会が共催・協賛・ 後援等をする行事です——

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

第74回表面科学基礎講座 表面・界面分析の基礎と応用

主催 (公社)日本表面真空学会
期日 2022年11月1日(火)～30日(水)
会場 オンライン (Google Classroom)
ホームページ <http://www.jvss.jp/>
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-16 石川ビル
5階 (公社)日本表面真空学会 [電話:03-3812-0266,
FAX:03-3812-2897, E-mail:office@jvss.jp]

実用表面分析セミナー 2022

主催 (公社)日本表面真空学会関西支部
期日 2022年11月17日(木)
会場 神戸大学百年記念館六甲ホール
ホームページ
https://www.jvss.jp/chapter/kansai/kansai_jitsuyou23/
連絡先 〒664-8520 兵庫県伊丹市鴻池2-13-12
日本板硝子(株) 日本表面真空学会関西支部幹事 湊 淳一
[電話:072-781-0081, E-mail:Junichi.minato@nsg.com]

日本金属学会オンライン教育講座 「金属製錬の熱力学」

主催 (公社)日本金属学会
期日 2022年11月17日(木)・18日(金)
会場 オンライン (Zoom) による講義
ホームページ
https://jim.or.jp/EVENTS/event_index.html
連絡先 〒980-8544 宮城県仙台市青葉区一番町1-14-32
(公社)日本金属学会 セミナー・シンポジウム参加係
[電話:022-223-3685, FAX:022-223-6312, E-mail:meeting@
jim.or.jp]

分離技術会年会 2022

主催 分離技術会
期日 2022年11月17日(木)・18日(金)
会場 オンライン形式
ホームページ <https://mtg.sspej.org/>
連絡先 年会実行委員会 [E-mail:nenkai2022@sspej.org]

第277回ゴム技術シンポジウム ゴム技術の基礎と最新分析技術

主催 (一社)日本ゴム協会
期日 2022年11月18日(金)

会場 東部ビルとオンライン (Zoom) 併用によるハイブリッド開催

ホームページ <http://www.srij.or.jp/>

連絡先 〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-26 東部ビル1階
(一社)日本ゴム協会 ゴム技術シンポジウム係
[電話:03-3401-2957, E-mail:kenkyuubukai@srij.or.jp]

電気化学セミナー C

「リチウムイオン電池研究開発の最前線
～基礎から応用まで～」

主催 (公社)電気化学会
期日 2022年11月21日(月)
会場 オンサイト・オンライン ハイブリッドセミナー (オン
サイト会場:東京理科大学 神楽坂キャンパス1号館17階記
念講堂 (Zoomによる同時配信を行います))
ホームページ <https://www.electrochem.jp/seminar/>
連絡先 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6 日本弘
道会ビル7階 (公社)電気化学会事務局
[電話:03-3234-4213, FAX:03-3234-3599, E-mail:seminar@
electrochem.jp]

女子大学院生・ポスドクのための 産総研内紹介と在職女性研究者との懇談会 Female Graduate Students Laboratory Tours and Round Table with Women Researchers in AIST

主催 産業技術総合研究所イノベーション人材部ダイバーシ
ティ推進室
期日 2022年11月24日(木)・25日(金)
会場 オンライン開催
ホームページ [https://unit.aist.go.jp/innhr/diversity2020/ja/
events/211126_event.html](https://unit.aist.go.jp/innhr/diversity2020/ja/events/211126_event.html)
連絡先 〒305-8560 茨城県つくば市梅園1-1-1 中央第一
(国研)産業技術総合研究所 イノベーション人材部ダイバー
シティ推進室 [E-mail:diversity-event-office-ml@aist.go.jp]

初めて書く論文は母語の日本語で！ “第22回若手研究者の初論文特集” 募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会では、2023年(第72巻)に第22回
「若手研究者の初論文特集」を企画します。卒研究生、修士・博
士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成
果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2019年より本
特集を年間特集とし、都合の良いときに執筆して投稿できるよ
うにしました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て
掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿くだ
さい。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

「分析化学」年間特集 “流”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より「年間特集」を企画し2023年は「流」をテーマとすることと致しました。

本特集では「流」をキーワードとして分析化学における基礎・応用を含めて幅広い観点で見渡し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。本特集に関わる論文はすべての論文種目で年間を通じてご投稿いただくことが可能で、審査を通過した論文は単行の特集号を除く「分析化学」第72巻（2023年）合併号の冒頭に掲載する予定です。国内外、産学官を問わず、「流」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析化学」誌の9号及びホームページをご参照ください。

特集論文の対象：「流」に関連した分析化学的な基礎・応用に関する論文。例を以下に示します。1) 液体や気体などの流れを利用した分析装置や分析手法の開発・応用、2) 連続的に流れている河川や大気などの分析に関する研究、3) 製造ラインなどの流れの中で利用する分析法の開発・応用、4) 電子の流れを計測する電気分析化学的研究、5) 原子・分子の流れを扱うシミュレーションを活用した分析化学的研究。

特集論文原稿締切：2022年11月18日（金）（第2期）

「分析化学」編集委員会特集 “ウェルネスに貢献する分析化学”の論文募集

「分析化学」編集委員会

2023年度（第72巻第6号）の「編集委員会特集」のテーマは、『ウェルネスに貢献する分析化学』に決定いたしました。

本特集では、ウェルネスに貢献する分析化学と題し、医療、福祉、スポーツ、食と農、美容、環境、IT等の様々な分野における分析化学を対象とした研究に着目することと致しました。ウェルネスに関連した、新たなサイエンスを切り拓くための基盤技術、およびその応用に関する論文の投稿をお待ちしております。なお、詳細は「分析化学」誌の6号及びホームページをご参照ください。

特集論文申込締切：2022年10月7日（金）

特集論文原稿締切：2022年12月2日（金）

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することになりました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式（P：印刷ページ数）（単位：円）

会員の場合：30,000+5,000×(P-4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律80,000円）

会員外の場合：40,000+5,000×(P-4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律90,000円）

*上記に消費税がかかります。

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先はshomu@jsac.or.jpです。原稿の長さに制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日（例：1月号掲載→11月25日締切）となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。どうか、本会事務局長宛にお問い合わせください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルをshomu@jsac.or.jpにお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋（共催）

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。（後援又は協賛）
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。

第83回分析化学討論会

—講演募集—

標記討論会を以下の日程で開催いたします。講演申込及び講演要旨の提出にはアトラス社、Confitによるオンライン登録システムを使用します。郵送、FAX及び電子メールでの受付は一切行いません。本討論会では、主題講演（口頭発表）、一般講演（口頭発表、ポスター発表）、若手講演（ポスター発表）、テクノレビュー講演（口頭発表、ポスター発表）、産業界R&D紹介講演（ポスター発表）を設けましたので、以下の各事項をご参照のうえ、講演申込登録締切までにオンライン登録システムによりお申し込みください。講演要旨は1講演A4判1頁となります。なお、現在実行委員会では対面での開催を原則として計画を進めておりますが、開催形式等については新型コロナウイルス感染症の状況により、急遽変更となる場合も想定されます。最新の情報や講演申込等の詳細については第83回分析化学討論会ホームページ（以下、討論会HPと略）を必ずご確認ください。

【第83回分析化学討論会公式WebサイトURL（講演申込）】

討論会HP：<https://conference.jsac.jp/83touron/>

【第83回分析化学討論会 講演申込・講演要旨提出スケジュール】

・講演申込登録開始日時：2022年12月14日（水）

ご注意ください：講演申込は会員登録がお済みの方に限られます。
非会員の方は必ず個人会員登録をお済ませの上お申し込みください。

・講演申込登録締切日時：2023年1月25日（水）（厳守）

・要旨提出締切日時：2023年3月8日（水）（厳守）

主催（公社）日本分析化学会

後援 国立大学法人富山大学

会期 2023年5月20日（土）・21日（日）

日程

5月20日：主題講演（口頭）、一般講演（口頭、ポスター）、若手講演（ポスター）、テクノレビュー講演（口頭、ポスター）、産業界R&D紹介講演（ポスター）、依頼講演、ランチョンセミナー、機器展示会、懇親会

5月21日：主題講演（口頭）、一般講演（口頭、ポスター）、テクノレビュー講演（口頭、ポスター）、依頼講演、ランチョンセミナー、機器展示会

※日程は変更する場合があります。

会場 富山大学五福キャンパス

発表形式 01：主題講演（口頭発表）、02：一般講演（口頭発表）、03：一般講演（ポスター発表）、04：若手講演（ポスター発表）、05：テクノレビュー講演（口頭発表）、06：テクノレビュー講演（ポスター発表）、07：産業界R&D紹介講演（ポスター発表）

討論主題（主題講演）

第83回討論会では4件の討論主題を設定します。

1. 生命を観る・測るバイオ分析の最前線
オーガナイザー：小澤岳昌（東京大学）
2. “Next Gen”化学センシング ～次世代化学センシングの方法論・デバイス開発の最前線～
オーガナイザー：久本秀明（大阪公立大学）
3. 流れ分析法の新展開と社会への貢献
オーガナイザー：鈴木保任（金沢工業大学）
4. より迅速で、より簡便な分析化学を目指して
オーガナイザー：菅原一晴（前橋工科大学）

※討論趣旨及び依頼講演は決定しましたら討論会HP上で公開します。

【講演分類一覧】 別記を参照ください。

【講演申込要項】

本討論会に講演申込を行うにあたり、下記の各事項をあらかじめご承諾のうえ、講演申込を行ってください。

1. 講演内容は、未発表のものに限ります。ただし、主題講演には、既発表のものが一部含まれていても差し支えありません。
2. 講演時間は、一般講演（討論主題での口頭発表を含む）は15分（講演12分、討論3分）、依頼講演及びテクノレビュー講演（口頭発表）は30分（講演25分、討論5分）、ポスター発表（一般講演、若手講演、テクノレビュー講演、産業界R&D紹介講演）は60分を予定。なお、口頭及びポスター発表の講演方法についての詳細は、討論会HPに掲載予定です。若手講演（ポスター発表）、テクノレビュー講演（口頭・ポスター発表）及び産業界R&D紹介講演（ポスター発表）への応募の詳細は別記を参照ください。
3. すべての口頭発表会場にプロジェクター、アナログRGBケーブル、PC切替器等を用意します。講演者は講演データの入ったノートパソコンを持参して講演発表を行ってください。
4. 講演者（登壇者）は、講演申込時点において日本分析化学会の個人会員（正会員、学生会員）であること（産業界ポスターは維持会員も可）、会員は2023年会費が納入済みであることが必要です。講演を希望する方は、学会ホームページ（以下、学会HPと略）から入会手続きを済ませたうえで、講演申込をお願いします。なお、講演者（登壇者）は別途本討論会への参加申込登録をしないと講演発表ができません。
5. 同一演題で発表形式を変えて（口頭とポスター発表など）重複講演することはできません。
6. 関連ある複数の講演（口頭発表に限る）を連続して発表

したい場合は、講演申込締切日までに発表順序を実行委員会に申し出てください。ただし、発表形式と講演分類（主題講演の場合は討論主題分類）が一致している場合に限り、講演日及び講演時間の指定はご容赦ください。なお、希望にそえない場合もありますので、最終決定は実行委員会に一任ください。

7. 会場の都合等で、発表形式を変更する場合は、事前に実行委員会より連絡します。
8. 維持会員として講演申込をされる方は、討論会 HP をご確認ください。

講演申込方法 Web 申込に限ります。討論会 HP および「要旨作成テンプレート」をご覧のうえ、講演申込登録、要旨作成及び提出をお願いいたします。郵送、FAX 及び電子メールでの申込はできません（講演申込登録締切日厳守のこと）。申込者のコンピュータ環境（ネットワーク環境を含む）が原因で講演申込の登録に不備をきたしても、実行委員会、学会事務局は一切責任を負いかねます。講演申込に関する緊急情報や変更点などのお知らせ、講演申込システム等の障害情報は速報性を考慮してすべて討論会 HP（または学会 HP）に掲載しますので、適宜ご覧ください。本誌発行後に登録システムを予告なく変更する場合があります。最新情報等の詳細は討論会 HP を参照ください。

【若手講演（ポスター）募集】

主催 第 83 回分析化学討論会実行委員会、共催 全国若手交流会

期日 5 月 20 日（土）

会場 富山大学五福キャンパス

趣旨 分析化学の時代を担う大学院生や若手研究者・技術者による研究成果の発表と相互のさらなる発展を目的として若手講演（ポスター）を企画しました。分析化学は自然科学の基盤を支える重要な学問・研究分野として、また産業の技術革新を押し進める原動力として重要な役割を果たしています。本企画が、大学院生や若手研究者・技術者の研究成果のアピールや情報交換・交流によって分析化学の一層の活性化を促す機会となることを期待しています。このポスターセッションではポスター賞を選出いたします。奮ってご応募ください。

発表形式 ポスター発表会場における 60 分のポスター発表形式。講演要旨は要旨集に掲載します。

講演申込方法 一般講演等に準じてオンライン（Web）上からお申し込みください。「発表形式」の欄で、「04：若手講演（ポスター）」を選択してください。講演申込・講演要旨提出はすべて本討論会の諸規則に準じます。講演申込締切後の発表形式の変更はできません。

講演申込登録締切 一般講演等と同じ。

募集対象 本会学生・個人会員（概ね 30 歳まで）

※非会員は発表できません。

【テクノレビュー講演募集】

主催 第 83 回分析化学討論会実行委員会

期日 5 月 20 日（土）・21 日（日）

会場 富山大学五福キャンパス

発表形式 口頭発表かポスター発表を選択できます。口頭発表は一般講演口頭発表会場で、ポスター発表は一般講演ポスター会場で開催します。口頭発表は 30 分（講演 25 分、討論 5 分）、ポスター発表は 60 分の予定です。講演要旨は要旨集に掲載します。

講演料 口頭発表、ポスター発表いずれも 1 件 50,000 円。講演料には発表者の参加登録料 1 名分が含まれます。

講演申込方法 一般講演等に準じて Web 上からお申し込みください。「発表形式」の欄で、「05：テクノレビュー講演（口頭）」または「06：テクノレビュー講演（ポスター）」を選択

してください。講演申込・講演要旨提出はすべて本討論会の諸規則に準じます。

講演申込登録締切 一般講演等と同じ。

【産業界 R&D 紹介講演（ポスター）募集】

主催（公社）日本分析化学会「産業界における研究開発と分析ソリューション」シンポジウム企画運営委員会

趣旨 産業界の分析部門間及び産学官の交流・情報収集・研究議論・技術発信/アピール・若手育成と、学生に向けた企業活動説明を目的とします。

期日 5 月 20 日（土）・21 日（日）

会場 富山大学五福キャンパス

発表形式 ポスター発表会場における 60 分のポスター発表形式。講演要旨は要旨集に掲載します。

募集対象 産業界で活躍されている研究者、技術者（本会維持会員または正会員に限ります）。ただし、維持会員企業の方のご発表は 1 件に限ることとします。

講演申込方法 一般講演等に準じて Web 上からお申し込みください。「発表形式」の欄で、「07：産業界ポスター」を選択してください。講演申込・講演要旨提出はすべて本討論会の諸規則に準じます。維持会員として講演申込をされる方は、討論会 HP をご確認ください。

講演申込登録締切 一般講演等と同じ。

【展示会等出展のお願い】

機器・カタログ出展および
ランチョンセミナー・バナー広告

主催 第 83 回分析化学討論会実行委員会

分析・計測機器関連のメーカー・販売会社、分析技術提供会社との相互交流・情報交換の場として、展示会を開催いたします。また、期間中の昼休みを利用して企業セミナー（ランチョンセミナー）を開催いたします。

【機器・カタログ展示会】

展示日時 5 月 20 日（土）・21 日（日）（ただし、21 日は 14 時までの予定）

会場 富山大学五福キャンパス（ポスター会場）

展示費用 1 小間：80,000 円（税別）

募集締切日 3 月 30 日（木）

【ランチョンセミナー】

日時 5 月 20 日（土）・21 日（日）12.10～13.00

会場 富山大学五福キャンパス（口頭会場）

開催費用 150,000 円（税別）

※セミナー運営に関する費用（昼食用弁当など）は別途

募集締切日 3 月 30 日（木）

【バナー広告】

公開場所 第 83 回分析化学討論会 HP

掲載期間 2023 年 1 月～5 月

掲載料金 1 枠：1 月～5 月 50,000 円、

3 月～5 月 30,000 円（いずれも税別）

問合先・申込先 〒104-0061 東京都中央区銀座 7-12-4（友野本社ビル）(株)明報社（担当：後藤）〔電話：03-3546-1337, FAX：03-3546-6306, E-mail：info@meihosha.co.jp〕
※展示会及びランチョンセミナーの内容は変更になる場合がございます。詳細は(株)明報社にお問い合わせください。

【宿泊等についてのご注意】

実行委員会では宿泊先等にかかる斡旋は行いません。なお、皆さまの宿泊先についてのアンケートを実施予定ですので、参加受付時には是非ご協力の程、お願いいたします。

【託児所開設について】

第 83 回分析化学討論会では、託児所を開設の予定です。詳

細は討論会 HP をご参照ください。

【Web 版講演要旨集の発行日について】

第 83 回分析化学討論会 Web 版講演要旨集の発行日は、2023 年 5 月 8 日です。特許出願の際は、下記の特許庁ホームページを参照ください。

<https://www.jpo.go.jp/index.html>

本要旨集に掲載されたものについての著作権は、(公社)日本分析化学会に帰属します。

【その他事項】

講演プログラム速報版は討論会 HP に 3 月下旬までに掲載予定です。

【その他の会合】

【ものづくり技術交流会 2023in 中部】

主催 分析イノベーション交流会実行委員会

日時 5 月 20 日 (土)

会場 富山大学五福キャンパス

これまで分析化学とは縁のなかつたような分野の企業との新たなつながりをつくる機会として、ものづくりの企業によるショートプレゼンテーションや展示を、事例レクチャーとともに企画しております。奮ってご参加ください。

【講演分類一覧】

- 01: 原子スペクトル分析 (ICP-MS を含む)
- 02: 分子スペクトル分析 (吸光分析法, 蛍光・リン光分析法, 赤外・ラマン分析法, 表面プラズモン共鳴など)
- 03: レーザー分光分析 (顕微分光, レーザー励起発光, 光熱変換分光, 非線形分光など)
- 04: X 線分析・電子分光分析・量子ビーム分析
- 05: 放射線計測による分析
- 06: NMR (ESR などを含む)
- 07: 電気化学分析
- 08: センサー, センシングシステム
- 09: 熱分析
- 10: 有機微量分析 (元素分析を含む)
- 11: 質量分析 (イオン化法を含む)
- 12: マイクロ分析系 (マイクロチップ, マイクロ分離システム, 一分子検出系など)
- 13: フローインジェクション分析
- 14: 液体クロマトグラフィー (LC/MS を含む)
- 15: ガスクロマトグラフィー (GC/MS を含む)
- 16: 電気泳動分析 (キャピラリー電気泳動など)
- 17: 溶媒抽出法, 固相抽出法, イオン交換系
- 18: 分離・分析試薬の設計
- 19: 分析化学反応基礎論 (平衡論, 速度論など)
- 20: データ処理理論 (AI, ケモメトリックスなど)
- 21: 標準物質
- 22: サンプルング, 前処理
- 23: 界面分析 (液液系, 固液系, 気液系, 気固系, 液滴など)
- 24: 微粒子分析および微粒子利用分析 (ナノ粒子など)
- 25: 宇宙・地球に関する分析化学 (天体, 大気, 河川・湖水・海洋, 土壌など)
- 26: 環境関連分析 (環境汚染物質, 環境放射能, 粉じん, SPM, 生体影響物質など)
- 27: 無機・金属材料分析
- 28: 電池・エネルギー材料 (電池材料, 燃料電池材料, バイオマスなど)
- 29: 有機・高分子材料分析 (有機・無機複合体材料を含む)
- 30: 食品・農作物・ヘルスケア等分析 (野菜, 畜産, 食品添加物など, 遺伝子組換え, 農薬, 香粧品, サプリメントを含む)

む)

- 31: バイオ分析 (プロテオーム解析, メタボローム解析, 再生医療にかかわる分析 (細胞, 培地, 足場材, 医療用材料) を含む)
- 32: バイオイメーjing
- 33: 医薬分析 (不純物, ドーピング, 代謝物 (ADME), バイオ医薬など)
- 34: 臨床分析 (法科学分析, POCT, 医療用センサー, in vivo 計測, バイオマーカーを含む)
- 35: 企業における分析解析活用と課題解決への適用
- 36: その他

【各種お問い合わせ先】

主題講演及び会場などに関するご質問は実行委員会までお問い合わせください。

第 83 回分析化学討論会実行委員会事務局

E-mail : 83touron@jsac.jp

【重要】講演要旨について

1 講演あたりの講演要旨のサイズは A4 判 1 頁とし、PDF ファイルによる提出となります。概略は以下の通りです。詳細は討論会 HP を参照ください。

- ・1 講演あたりの講演要旨のサイズは A4 判 1 頁。(図表, 画像等を含みます。)
- ・カラー図表, 画像も可。

記載内容, 形式等については討論会 HP 内に要旨作成テンプレートを置く予定ですので, そちらをご参照ください。

【第 83 回分析化学討論会 参加登録料について】

本討論会に参加予定の方は、登壇者を含めて全員参加登録をお願いいたします。登壇者 (依頼講演者の一部を除く) は討論会への参加申込登録を行わないと講演発表ができませんので、必ず参加登録をしてください。参加予約登録 (オンライン登録) の申込方法の概要は「ぶんせき」誌 2 月号及び討論会 HP に掲載いたします。参加予約登録料等は以下の通りです。

参加登録料

予約: 会 員 9,000 円, 学生会員 4,000 円,
非会員 18,000 円, 非会員学生 8,500 円
通常: 会 員 12,000 円, 学生会員 5,000 円,
非会員 21,000 円, 非会員学生 9,500 円

高校生およびその指導者は無料です。

* 会員, 学生会員の予約・通常登録料は不課税扱いです。非会員, 非会員学生の参加登録料は予約, 当日ともに税込金額です。

【参加登録料の領収書の発行について】

参加登録のサイトからダウンロードできます。